

建設 防災 ボランティアニュース 第 27 号

今こそ真の「技術の継承」を！

(都 OB を活用した新しい試み)

東京都の技術部門への警鐘！ 設計や施工だけでなく企画・計画部門の多くのコンサルタント委託や安易なアウトソーシング、IT 機器への過剰な依存等々、行政の技術力の低下が叫ばれて久しい。

また、この数年で技術力を担ってきた「団塊の世代」の大量退職の波が押し寄せ、今こそ真の「技術の継承」を考え、その対策に取り組む時期に来ている。

防災ボランティアのメンバーは、自宅に近い地域の建設事務所の事業を支援するため、日頃より建設事務所が主催する「防災訓練」に参加したり、都市基盤施設の施設点検に協力したりする活動を続けている。

しかしながら、自分達の培った技術力を後輩職員に直接伝える機会は余りないのが実情である。

先般、南東建の平田所長から、これから技術職員の定数がますます減らされ、地域のウィークポイントを良く知っているベテラン職員が退職し、今後の技術力の継承を真剣に考えたい旨の熱意ある提案がされた。

私もかねてからこのテーマをなんとかしなくてはという問題意識を強く持っていたので、一緒になって良い仕組みを考えましょうと即答した。

そのテーマに対して南東建の管理職の皆さんと我々のメンバーで検討を重ねた結果、防災ボランティアの持つ知恵と経験を南東建の事業に活用できる体制を作るため、所長と南東建リーダーとの間に「覚書」を結びつけるところまでこぎつけ、七か条からなる「覚書」を平成19年11月30日付けで締結した。

この「覚書」では道路及び河川の整備並びに土木技術に関して、講演や技術資料の情報提供、定期的な意見交換をし、現役職員に対して都OBの持つ知恵と経験を提供し啓蒙に努めていこうというものがある。

この「覚書」に基づき、平成20年2月13日、防災

ボランティア協会員による講演及び意見交換会が開催された。私どもの防災ボランティアの中には、幸い土木技術研究所(現土木技術センター)で長年研究された杉本隆男さんが在籍しているので、「東京の地形・地質条件を考慮した土留め・山留め工の計画のポイント」という題のもとにパワーポイントを活用し1時間半に及ぶ格調高い講演を行なった。



平田所長の挨拶



講演中の杉本協会員

このテーマは杉本さんが、南東建の職員も五建などの軟弱地盤を有する事務所に異動になっても大丈夫なようにという配慮からである。その後の意見交換会では、南東建の職員約40名ボランティア11名が参加して、

- ①ボーリングする際のポイントとなる考え方
- ②路面補修における騒音・振動の苦情対応

- ③開発審査における建築山留の注意事項
- ④河川改修における自然地盤の利用方法
- ⑤道路財源と道路の必要性
- ⑥行政の役割とアウトソーシング

また、女性の新人技術職員からは、

- ⑦知識の習得方法に関すること

等々建設事務所の事業を執行する上で具体的に困っていることについて、口角泡をとばす、自由闊達な議論がなされ2時間 30 分の予定時間もオーバーする程の熱心さであった。



参加職員の質疑

このような取り組みを通じて、きめ細かく技術の継承(平田所長のいう「土木魂の継承」)をしていけば、現役職員の技術力のさらなる向上に結びつくと信じる。

最後に、このように都 OB の技術力を評価し活用するため心を砕いて下さった、平田所長をはじめ南東建の管理職・関係者の皆さんに感謝申しあげたい。

(南東建班 原 田 龍 次)

施設見学会の報告

建設防災ボランティアは、平成 19 年度の施設見学会として、新交通「日暮里・舎人ライナー」に試乗した。3月17日(月)15時15分までに、71人がJR山手線・京浜東北線の日暮里駅前に集合した。

15時30分の定刻に新交通日暮里駅で乗車し、見沼代親水公園駅まで20分で行き、16時10分、日暮里駅に戻った。約10kmの路線に13駅あるが、往復40分間で走った。

車両は5両編成で、定員は約260人であるが、71人が分乗するとほぼ満員のようにも見えた。この日暮里・舎人ライナーは、建設局が軌道の支柱・桁、

駅部の主要構造物を建設し、地下鉄建設株式会社が車両、電気、通信等各種施設を整備している。3月30日の開業を目指して最後の仕上げの最中だ。

荒川区と足立区にまたがる区部北東部は、これまで鉄道がなかった。したがって、日暮里・舎人ライナーの整備によって、交通の利便が飛躍的に向上することになる。また、道路の混雑や既存の東武伊勢崎線の混雑も緩和されるであろう。

さらに、土地区画整理事業など沿線の開発を誘導すると共に、舎人公園などの利用を促進し、文化・リクリエーションなどの交流を支援することになる。



新交通建設事務所の相場所長の説明



地下鉄建設(株)山口建設部長の説明

沿線に住んでおられる人たちの喜びはいかほどであろう。同時に、これまでの長年にわたって整備を進めてこられた建設局、交通局、地下鉄建設株式会社をはじめ関係者の皆様のご努力に対して深く感謝したい。

試乗に当たっては、地下鉄建設株式会社の野崎春己新交通本部長・山口外志建設部長、第六建設事務所の田所伸夫所長、同所新交通建設事務所の相場淳司所長に案内・説明していただいた。あり

がとうございました。



日暮里駅の試運転列車(この車両に試乗)



扇大橋付近の軌道

試乗会終了後は、日暮里駅前の大衆酒場で懇親会を実施した。試乗した71人のうち43人と、案内していただいた4人に参加いただき約2時間、大いに盛り上がった。

整備費は千二百数十億円とのこと。新銀行東京への出資金千億円と予定されている追加出資四百億円とがあれば、同規模の新交通がもう一つ整備できることになる。

(綿貫朝治)

勝鬨橋ミニツアー第三回研修会について

平成17年5月11日に開始されたミニツアーも、皆様方のご協力のもと、満3年が経過し、19年度末で2,079名の案内を行いました。この間、大きな事故もなく案内できましたことは、ひとえに参加協会の真摯な取り組みの結果と考えます。

手探りの状況から出発、その後の種々の経験を生かしたマニュアルが作成されていますが、今回、小冊子にまとめられました。5月15日に開催し、47名が参加された研修会では、初心に帰り、より確実、

安全な案内の確認のために、その概要が説明され、その後の意見交換では、安全確保面での活発な意見が開陳されました。

最後に、今後の案内に非常に参考となる、橋の資料館々長がまとめられた「絵図にみる隅田川河口部の歴史」が紹介されました。



沼尻会長



米田保全担当部長



飯野総務部長



三浦所長

45名出席の懇親会には、道路管理部の米田道路保全担当部長ほか、道路整備保全公社の飯野総務部長ほか、および第一建設事務所の三浦所長ほかの方々も加わり、会は大いに盛り上がり、第三回研修会が無事終了いたしました。

(担当理事 堀中逸)

研修会の報告

「勝鬨橋」橋脚内の見学ミニツアー事業は、東京都建設ボランティア協会の活動の一環として実施しています。建設局・道路整備保全公社・防災ボランティア協会の3者は、協力して勝鬨橋関連事業の運営を行っていますが、防災ボランティア協会はこのうちの「ミニツアー事業」における都民参加者への案内・説明の実務を担っています。

本年度の活動登録者は61名で、毎週木曜日に12班に分けて実施しています。このミニツアー事業の活動3周年にあたり、3者共催による第三回研修会が平成20年5月15日(木)15時30分より、築地市場厚生会館で行われ、関係者約50名が集まりました。研修会では、最初に小冊子「勝鬨橋ミニツアーガイドブック」(防災ボランティア協会)及び「絵図に見る隅田川河口部の歴史」(かちどき 橋の資料館)が配布・説明されました。

「勝鬨橋ミニツアーガイドブック」は、我々ボランティアとしての心得や役割分担からミニツアー都民参加者への案内・安全確保・説明内容まで、ハンディタイプの手引きとしてまとめたものです。



ガイドブック等の説明



聴講中の参加会員

過去3年間のノウハウが詰まったこの冊子は事前勉強や当日の虎の巻として役に立つと思います。「絵図に見る隅田川河口部の歴史」は、勝鬨橋を含む隅田川河口部における歴史や町並みの変遷・埋め立てによる地形の変化などを浮世絵や地図・写真などによりビジュアル的にまとめたものです。

個人的興味も高いものですが、ミニツアー参加者たちとの説明や会話が幅広いものになると思います。

最後に今後の事業執行に関する意見交換を全員で行いました。ミニツアー参加者に高齢者が多いこと、また自転車の多い歩道の坂道や橋脚内という危険な場所での条件下で、いかに参加者に事故なく安全に案内をすべきか、いかに気持ちよく見学をしてもらうか、それぞれの経験を踏まえて活発な意見交換がなされました。

ここでの様々な事例は、全体の共通認識として今

後の執行に役立つと思います。また、われわれ各ボランティアは、如何に責任感を持ってこの事業に取り組むべきかの議論も白熱し、オールドボーイたちの熱い情熱が沸き立った一日でした。

(阿久津 勉)

協会からのお知らせ

1. 新規入会々員及び退会々員

①新規入会々員

佐藤 恭章 (五建・H20.04)
新川 彰 (北南建・H20.04)
松倉 迪郎 (北々建・H20.04)
中込 孝仁 (南西建・H20.05)
敬称略(参集事務所・入会月)

②退会々員(平成19年度末)

新井 幸次郎、金野 軍志、清水 信幸、
田口 嘉隆、武田 稔、中西 徹、新村
豊、長谷部 助次、平原 勲、藤澤 亮、宮
寺 孝臣、矢萩 猛、吉田 稔 (敬称略)
以上の13名の方です、長い間協会活動にご協
力を頂きありがとうございます

2. 河川愛護月間に協会員が参加予定の行事は、

①川を歩こう

隅田川(7月8日)、石神井川(7月5日)、多摩川(7月12日)、南浅川(7月5日)、旧中川(7月5日)

②環七地下の巨大トンネルを体験(7月12日)

③平井川クリアップ作戦(7月25日)

④落合・黒目川わくわく清掃&川遊び(7月20日)

⑤野川のちびっ子先生集まれ(7月7日)

⑥東京の川を考えるシンポジウム(7月29日)

⑦川のフォトコンテスト・パネル展(7月7~10日)、 (7月22~25日)、(7月28~31日)、

です、会員の皆様、参集事務所等への協力をお願いいたします。

3. 平成20年度の東京都総合防災訓練は、中央区(一建)、江東区(五建)と合同で8月31日(日)に開催されます。

発行人: 沼尻 執

発行: 東京都建設防災ボランティア協会

所在地: 東京都新宿区西新宿2-3-1

財団法人 東京都道路整備保全公社内

編集: 加藤 基雄、中田 勝司、丸岡 敏夫